

## （1）大学・学科の設置理念

### ①大学

1916年（大正5年）に創立された西南学院は、「キリストに忠実なれ」という建学の精神に基づき、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人格を育てることを使命として、キリスト教的人間観、世界観に立ち、奉仕の精神をもって社会に貢献する人材を送り続けている。1949年（昭和24年）に新制大学として開設された西南学院大学においても、キリスト教を教育の基盤とし、地域、日本、そして世界に貢献できる教養豊かで深い専門知識と創造性を備えた人材を育成することを目的とし、キリスト教教育、国際性、少人数教育、語学教育・情報処理教育の4つを教育の柱として多くの人材を育成し、人文社会科学系の総合大学として学術文化の向上や社会への貢献に寄与している。

今後、本学が社会の多様な期待や要請に適切に応え、多様化や個性化をより一層推進していくためには、社会や学生のニーズに対応した教育体制の構築や教育内容の充実、教育方法の改善など、学部・大学院教育における組織改革や教育改革に格段の努力を注ぐことが重要であると考えている。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

西南学院大学大学院文学研究科（英文学専攻・フランス文学専攻）は、1976年、修士課程が設置され、1980年に、博士後期課程が設置された。建学の精神であるキリスト教を教育の基盤とし、社会の問題を解決し平和の実現に貢献する研究者、専門的職業人、そして、生涯を通して学び続けようとする意欲を持つ市民の育成を使命としている。

文学研究科英文学専攻博士前期課程では、英語圏の文学、英語学、コミュニケーション学を専修とする各部門が設置され、各学問の研究者や卓越した英語運用能力を生かしグローバルな世界において国際社会に貢献する職業人を育成している。博士後期課程では、英語圏の文学、英語学、コミュニケーション学の研究者や、卓越した英語運用能力を生かし社会に貢献する高度専門職業人を育成している。

文学研究科フランス文学専攻博士前期課程では、世界のフランス語圏の文学・思想・語学に対する強い関心を持ち、専門的知識を吸収し、高度なフランス語運用能力を身に付け、日本を含めた国際社会で自律的に活躍する人材育成をしている。博士後期課程では世界のフランス語圏の文学・思想・語学研究に対する強い関心を持ち、卓越したフランス語運用能力を生かして、国際社会のリーダーとなって活躍する高度専門職業人の養成を行っている。

文学研究科では、国際社会を視野に入れ、英語・フランス語の運用能力のみならず、イギリス・アメリカ・フランスの文学・語学・思想・社会・文化における高度な専門的知識を深め、独自の問題意識に基づいて、個々の学生が自ら研究テーマを設定して研究計画を立て解決する自立の精神を育てている。

しかしながら、近年の18歳人口の減少や高学歴志向の高まりを視野に入れることはもとより、課題解決を必要とする多様化・複雑化されたグローバル社会において活躍できる人材育成、刻々と変化する現代社会におけるICTやAI技術の進化に対応できる人材育成が急務となっている。すでに多くの大学において、ますます多様化する学生を対象として急激に変化する社会に対するさまざまな教育改革が行われている。さらに近年における大学間や学部間における交流と連携は、新しい世代の学生に対応する柔軟な政策となっている。これらの動向を踏まえた教育組織の整備と充実のために特色ある教育研究を行う必要性が生じている。

2020年には本学の外国語学部外国語学科が、旧文学部の英文学学科と外国語学科英語専攻・

フランス語専攻を統合し、改組され設置された。これを受けて、自己の資質・研究力を深めようと希望する学生を学内外から受け入れるため、本学文学研究科英文学専攻・フランス文学専攻は、これまでの教育研究実績を踏まえたうえで、教育研究体制の充実に向けて、両専攻を発展的に統合させ、外国語学研究科外国語学専攻を設置することとした。外国語学研究科には、コミュニケーション学プログラム、言語科学プログラム、文学文化プログラムの3つのプログラムを設ける。その目的については以下のとおりである。

西南学院大学大学院外国語学研究科は、英語・フランス語・外国語としての日本語の卓越した運用能力の養成を共通の基盤として、国内外の対人・組織・異文化・教育・ビジネス・メディアなどにおける人間関係の諸問題に関心を持ち解決を試みるコミュニケーション学、言語の統語・意味・音声など理論的構造を理解し、さらにその応用として外国語教育のあり方を考察する言語科学、あるいは英語圏・フランス語圏の文学・芸術作品の理論的側面・社会的背景・作品の読解法などを教授する文学文化のそれぞれの領域において、専門知識を極めつつ、かつ学際性を備え、世界の多様性を尊重して諸問題の解決に取り組み、国際社会において活躍・貢献できる優れた研究者及び専門的職業人などの人材を養成する。

そのディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。

外国語学研究科外国語学専攻修士課程は、英語、フランス語、又は外国語としての日本語の高度な運用能力を身に付け、それらを駆使して各言語のコミュニケーション学、言語科学・教育学、文学・文化に関する高い学問的知見を修得し、国際社会で課題解決ができ自律的に活躍する職業人の育成が社会から期待されている。そうした人材を育成するために、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び所定の試験に合格し、次のような資質・能力を有すると認められた者に修士（外国語学）の学位を授与する。

(1) 英語、フランス語、又は外国語としての日本語の高度な運用能力や、各言語のコミュニケーション学、言語科学・教育学、文学・文化に関する専門的知識・技能、および研究者としての責任感・倫理観を有している。

(2) 英語、フランス語、又は外国語としての日本語によるコミュニケーション学、言語科学・教育学、文学・文化の基本的知識を習得し、学術的課題への関心を持ち、それらについて思考・判断・表現する研究能力を身に付け、情報発信をすることができる。

(3) 専門的職業に就く者として主体的に課題に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を身に付けている。

今般の外国語学研究科外国語学専攻の設置計画は、2011年（平成23年）より推進してきた本学の教育研究組織の整備計画の一環として、今後の教員養成の充実への対応を図るものでもあり、本学の使命のさらなる具現化を目指すものである。

## (2) 教員養成の目標・計画

### ①大学

西南学院大学は、1949年（昭和24年）に開設されて以来、教育・研究の実践を通して社会に貢献する多くの人材を育成し、人文社会科学系の総合大学として地域の文化と社会の向上に貢献してきたが、1949年（昭和24年）から中学教諭一種及び高等学校教諭一種の課程認定を受け、1974年（昭和49年）からは幼稚園教諭一種、1985年（昭和60年）からは小学校教諭一種の課程認定を受け、地域に根ざした教員養成を行ってきた。

グローバル化や少子高齢化が進み、多様な人々との共生が模索される現代社会、さらに職務の多様化・多忙化が進む学校教育の現状と課題を踏まえて、本学教職課程では、以下のとおりキリスト教の愛・社会奉仕の精神（C h r i s t）、コミュニケーション能力（C o m m u n i c a

t i o n)、チャレンジ精神 (Ch a l l e n g e) を教員養成における基本理念 (3 C' s) として、教員養成に取り組んでいる。

西南学院大学が掲げる教職課程の理念

### 1. キリスト教の愛・社会奉仕の精神 (C h r i s t)

教育は教師次第であると言われるが、強い使命感、責任感を持った教師が今日、特に求められている。本学の教職課程ではキリスト教の愛、社会奉仕の精神を重視して、教師として求められる使命感、責任感、教育的愛情の基盤を形成することを目指している。教職を目指す者が、チャペルやキリスト教学などをはじめとする各科目の授業、様々な大学の行事や体験活動の中でこのような使命感、責任感を意識し、また、自らの内面にそれらが形成されていくよう導く。

### 2. コミュニケーション能力 (C o m m u n i c a t i o n)

これからの教師にはコミュニケーション能力が特に必要である。授業での発問、説明、応答、指示など、実践的指導力の一部としてのコミュニケーション力はもちろん、日頃から生徒や他の教職員と適切にコミュニケーションをとることも求められ、さらに開かれた学校づくりが提唱される現在、保護者や地域の関係者との適切なコミュニケーションをとることも重要視されている。本学の教職課程では、コミュニケーションについて音声言語だけでなく、手紙や文書など、文字言語も含み、授業中の発表やスピーチ、議論、模擬授業、指導案の作成、報告書の作成、文書コメントなど、様々なコミュニケーション能力を育成する活動を、その科目のねらいや種類に応じて取り上げ指導する。

### 3. チャレンジ精神 (C h a l l e n g e)

現在、学校教育は社会の変化に伴い、急速な改革を迫られている。そのような中、教師に求められているのは、日々、決まったことを決まったとおりにやるというルーティンワークの意識ではなく、社会の変化や新しい教育課題に果敢に挑む精神である。

本学の教職課程では、教職を目指す者には、このようなチャレンジ精神をもって学生生活を充実したものにし、部活動やサークル、留学や語学研修、研修旅行、学生サポーターやボランティア活動など、様々な未知の課題に積極的に取り組むこと、また、子どもが抱える問題や新しい学校教育の課題についてもよく理解し、適切な指導や対応ができるよう学習に励むことを望んでいる。教職課程の授業ではそのような課題について取り上げ、その解決に向けて学生と一緒に挑戦していきチャレンジ精神を養成する。

本学は、この理念を具現化するために、課程認定を受けた大学として教員養成を主要な任務として強く自覚し、現代の教育課題に適確に対応できる資質・能力を身に付けた教員を社会に送り出したいと考えており、教職教育センターを中心に、教職課程に関わるカリキュラム・指導方法の一層の充実と教育環境の整備を図り、より質の高い教員養成および教育研究活動を行う。

カリキュラムについては、各学部における基礎教育および専門教育も社会的視野を広め、教科教育における専門的力を高めるために不可欠であり、その専門的力は大学卒業後の教員としての基盤となるものであるため、教師として引き続き自己研鑽を積む上で欠かすことのできない要素と捉え、質の向上に取り組む。

指導方法については、4年間の教職課程の履修を通じて学生が教職への理解を深め、教職に就くことに対する強い意志を持ち、専門的な知識と技能及び教員として必要な資質や能力を確実に身に付けることができるよう、内容の充実に努めている。さらに、大学院には各研究科において

専修免許状が取得できるカリキュラムを設けており、個別分野の学問的知識や能力を生かしながら、教員を志す者としての専門性の強化を目指す。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

西南学院大学大学院外国語学研究科外国語学専攻は、西南学院大学外国語学部外国語学科をその基礎として、令和6（2024）年4月に設置される。外国語学専攻は、3つのプログラムから成り、コミュニケーション学プログラム、言語科学プログラム、文学文化プログラムとなっている。

英語・フランス語・外国語としての日本語の卓越した運用能力の養成を共通の基盤として、国内外の対人・組織・異文化・教育・ビジネス・メディアなどにおける人間関係の諸問題に関心を持ち解決を試みるコミュニケーション学、言語の統語・意味・音声など理論的構造を理解し、さらにその応用として外国語教育のあり方を考察する言語科学、あるいは英語圏・フランス語圏の文学・芸術作品の理論的側面・社会的背景・作品の読解法などを教授する文学文化のそれぞれの領域において、専門知識を極めつつ、かつ学際性を備え、世界の多様性を尊重して諸問題の解決に取り組み、国際社会において活躍・貢献できる優れた研究者及び専門的職業人などの人材を養成する。

以上のディプロマ・ポリシーに基づき、外国語学研究科では「深く豊かな教養、外国語に関するより高度な語学的知識と実践的運用能力の習得を基盤とする外国語による高度で総合的なコミュニケーション能力及び課題を解決する専門性が高い能力を身に付けること」を教員養成の理念とする。

この理念を実現するため、外国語に関する高度な専門知識を修得し、国際的視野を持ち、言語に関して新たな課題発見ができ、解決する意欲を持って実践力と指導力を発揮し、社会における外国語教育の発展に寄与できる教員養成を目標とする。

この目標を達成するために、深い専門知識と学際的、総合的学修が同時に必要であり、英語専修免許状取得に関しては、3つのプログラムから横断的に各種コースワーク科目が履修できるようにしており、フランス語専修免許状に関しては、2つのプログラム（言語科学プログラム・文学文化プログラム）から横断的に各種コースワーク科目が履修できるようになっている。

## （3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）

### ・中学校専修（外国語（英語））

外国語学研究科外国語学専攻が研究対象とする中心的な学問分野は「外国語学」であり、教育課程は外国語に関する高度な学問的知識と卓越した実践的運用能力の修得を基盤とし、国内外の問題解決を目指す上で必要となる高度な専門性と総合的なコミュニケーション能力を身に付けることができるものとしている。

また、英語に関する学修課程は、言語科学プログラムであり、英語統語論・形態論、英語意味論・語用論、英語音声学・音韻論など理論的基盤を修得し、さらに言語を使う心理的背景、人間の認知・知覚・記憶・思考を研究する心理言語学、量的データ使用によって、他の言語との比較によって言語を捉える対照言語学特論や辞書学を学び、同時に英語教育学研究、英語教育学特論によって、専門的・実践的指導力を身に付けるようになっている。加えて、コミュニケーション学プログラムには、コミュニケーション能力、対立と交渉、国際社会と平和などがあり、文学文化プログラムには、英語圏文学特論、世界文学特論、英語圏表象文化特論などがあり、横断的履修ができるようになっている。

外国語学研究科外国語学専攻では、これらの科目が体系的に学べる教育課程となっており、一種免許状取得に必要な知識・能力に加えて、より高度な専門的知識の修得・能力の育成ができることから、「外国語（英語）」の教員を養成することが、研究科の目的や専門分野からしても可能

であると判断し、中学校専修（外国語（英語））の教職課程認定を申請する。

・高等学校専修（外国語（英語））

外国語学研究科外国語学専攻が研究対象とする中心的な学問分野は「外国語学」であり、教育課程は外国語に関する高度な学問的知識と卓越した実践的運用能力の修得を基盤とし、国内外の問題解決を目指す上で必要となる高度な専門性と総合的なコミュニケーション能力を身に付けることができるものとしている。

また、英語に関する学修課程は、言語科学プログラムであり、英語統語論・形態論、英語意味論・語用論、英語音声学・音韻論など理論的基盤を修得し、同時に英語教育学研究、英語教育学特論によって、実践的指導力を身に付ける。さらに言語を使う心理的背景、人間の認知・知覚・記憶・思考を研究する心理言語学、量的データ使用によって、他の言語との比較によって言語を捉える対照言語学特論や辞書学を学び、同時に、隣接するプログラムからコミュニケーション能力、対立と交渉、国際社会と平和などがあり、文学文化プログラムには、英語圏文学特論、世界文学特論、英語圏表象文化特論など、横断的履修ができるようになっており、幅広い知識とそれを俯瞰する能力、及び判断力、批判力、表現力などを養成できるような科目編成としている。

外国語学研究科外国語学専攻では、これらの科目が体系的に学べる教育課程となっており、一種免許状取得に必要な知識・能力に加えて、より高度な専門的知識の修得・能力の育成ができることから、「外国語（英語）」の教員を養成することが、研究科の目的や専門分野からしても可能であると判断し、高等学校専修（外国語（英語））の教職課程認定を申請する。

・高等学校専修（外国語（フランス語））

外国語学研究科外国語学専攻が研究対象とする中心的な学問分野は「外国語学」であり、教育課程は外国語に関する高度な学問的知識と卓越した実践的運用能力の修得を基盤とし、問題解決を目指す上で必要となる高度な専門性と総合的なコミュニケーション能力を身に付けることができるものとしている。

また、フランス語に関する学修課程は、言語科学プログラムであり、フランス言語学、フランス語音声学・音韻論などによってフランス語という言語の理論的理解を深め、フランス語教育工学によって観察を基盤にしたコーパス言語学と量的・質的データ分析をもとにした学習方法を修得し、フランス語の教授法の歴史と複言語・多言語主義教育を学ぶフランス語教授法特論の履修を可能にしている。これらによって、言語や言語文化の多様性を理解し、異なる言語背景を持つ人々と協調しながら、世界の諸課題の解決に取り組むことができる力を身に付けることができる科目編成としている。

「外国語（フランス語）」の教員養成においては、フランス語に関する「外国語学」の専門分野はもちろん、隣接する文学文化プログラムから、フランス文学・思想（フランス語圏演劇特論、フランス語圏小説特論、フランス社会思想史）を修得する必要があるが、外国語学研究科外国語学専攻では、これらの科目が体系的に学べる教育課程となっており、一種免許状取得に必要な知識・能力に加えて、より高度な専門的知識の修得・能力の育成ができることから、「外国語（フランス語）」の教員を養成することが、研究科の目的や専門分野からしても可能であると判断し、高等学校専修（外国語（フランス語））の教職課程認定を申請する。

以上

## 様式第7号イ

## I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

## (1) 各組織の概要

①

組織名称：	教職教育センター
目的：	<p>教職教育センターは、大学の建学の精神・教育理念にのっとり、教員養成の運営全般にかかる全学的な調整、教員の教育力向上のための企画及び運営を行い、適正かつ良質な教職課程の運営を安定的に行うための措置を講じ、優れた教員を継続的に養成及び輩出することを目的としている。業務としては以下8項目を執り扱う。</p> <p>(1)教職課程カリキュラムの編成  (2)教職課程の運営（教育実習、学校インターンシップ及び介護等体験を含む。）  (3)教職課程の自己点検評価  (4)教職課程のFD  (5)教員採用試験の支援  (6)教職課程の連絡及び調整  (7)教育委員会等教職に関する外部機関との連携及び調整  (8)その他教員の教育力向上のための企画及び運営</p>
責任者：	教職教育センター長
構成員（役職・人数）：	教職教育センター長1名、教職教育センター主任1名、教職教育センター教員4名、事務局5名
運営方法：	全学教職委員会及び教職教育センター委員会の活動を通し運営を行い、全学教職委員を通じて教職課程を有する全学科の協議会へ情報共有や依頼・調整を行う。

②

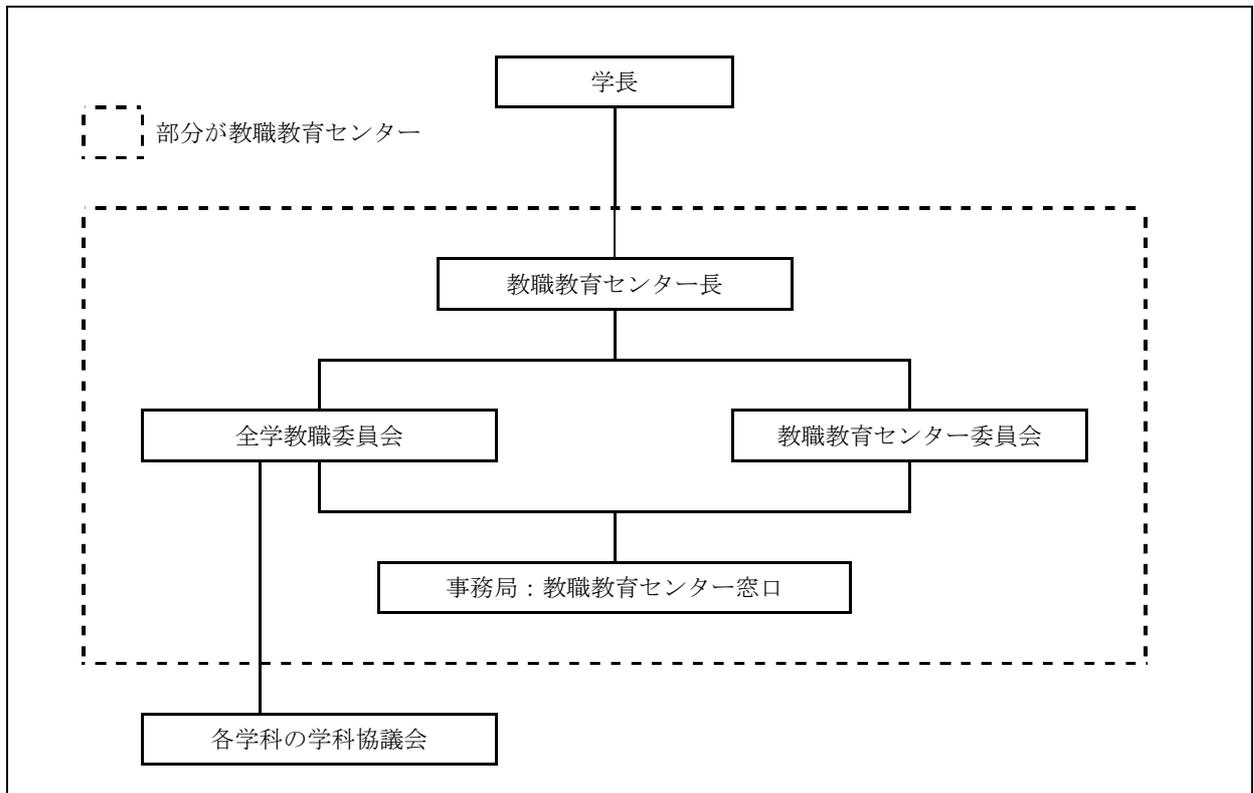
組織名称：	全学教職委員会
目的：	<p>全学教職委員会は教職教育センターの最上位会議体となり、以下に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1)教職課程の運営に関する事項（教育実習、学校インターンシップ及び介護等体験を含む。）  (2)教職課程に関する履修規程その他諸規則の制定又は改廃に関する立案  (3)教職課程カリキュラムの編成に関する事項  (4)教職課程の点検及び評価に関する事項  (5)教職課程のFDに関する事項  (6)教員採用試験の支援に関する事項  (7)学校教員の教職研修等に関する事項  (8)その他教職課程の連絡及び調整に関する事項</p>
責任者：	教職教育センター長
構成員（役職・人数）：	教職教育センター長1名、教職教育センター主任1名、全学教職委員（各学科主任で1名）14名、事務局2名の計18名
運営方法：	前期2回・後期3回の計5回開催

## 様式第7号イ

③

組織名称：	教職教育センター委員会
目的：	<p>教職教育センター委員会は全学教職委員会に対する立案機関及び教職教育センターの運営機関として位置付けられ、以下に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1)教職教育センターの管理及び運営に関する事項</p> <p>(2)教職教育センターの業務に関する事項</p> <p>(3)教職課程に関する履修規程その他諸規則の制定又は改廃の原案に関する事項</p> <p>(4)専任教員任免の立案に関する事項</p> <p>(5)非常勤講師任免の原案に関する事項</p> <p>(6)教職課程カリキュラムの編成の原案に関する事項</p> <p>(7)教職課程の点検及び評価の原案に関する事項</p> <p>(8)教職課程のFDの原案に関する事項</p> <p>(9)教員採用試験の支援の原案に関する事項</p> <p>(10)教育委員会等教職に関する外部機関との連携及び調整に関する事項</p> <p>(11)その他教員の教育力向上のための企画及び運営に関する事項</p>
責任者：	教職教育センター主任
構成員(役職・人数)：	教職教育センター主任1名、教職教育センター教員4名、全学から選出された教職教育センター委員2名の計7名
運営方法：	休暇期間を除き毎月1回計10回開催する。道府県及び市区町村教育委員会、自治体の教育センター、九州教員研修支援ネットワーク等外部機関との協働事項への対応及び連絡・調整についての初期対応も行う。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

## Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

### (1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

・北九州地区大学教育実習連絡協議会

北九州地区における教育実習を円滑に実施し各大学における教育実習を効果的に発展向上させるために実習を実施する大学と北九州市教育委員会とが連絡・協議を行う。具体的には実習後の反省及び意見の交換を行い、次期教育実習実施に関して、連絡調整を行う。

・福岡市大学教員養成連携協議会（ワーキンググループ）

本学と福岡市教育委員会が相互に連携・協力することにより、教員を志望する学生の資質・能力の向上を図り、学校教育の充実・発展に寄与することを目的とする。具体的には、福岡市立学校における教育実習の受入調整及びその充実、採用選考試験制度の検討・導入、その他、教員を志望する学生の資質・能力の向上に必要と認める事項について意見交換を行う。

### (2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 福岡市教育委員会 学生サポーター制度

連携先との調整方法： 本学のボランティアセンターを通して福岡市教育委員会に申し込みを行い、受入先が決定したら、受入校と本人とで活動の日時や内容等について調整を行う。

具体的な内容： 福岡市の学校教育の活性化のため、大学生とのふれ合いを通して豊かな心を育むとともに、よりきめ細かな指導を行うこと、大学生の資質や能力の向上を図ることを目的として、福岡市教育委員会と協定を結んだ大学から派遣される学生を、福岡市立の小・中・高・特別支援学校、幼稚園で受け入れてもらい、授業や学校行事、教材づくり、休み時間、部活動など、さまざまな教育活動のサポートを行う。具体的には、学習指導のサポート、学校行事・学級活動のサポート、教材作成・環境整備のサポート、部活動・クラブ活動のサポート、障がいのある子どものサポート、外国から来た子どものサポート等を行っている。

## Ⅲ. 教職指導の状況

大学院生向け教職説明会

一種免許状を取得している大学院生に向けては、専修免許状の取得を目指すために必要な科目や履修方法等についての説明・指導を行っている。一種免許状を取得していない場合は、科目等履修生として一種免許状の取得を目指す方法についてもあわせて説明・指導を行っている。その他、随時学生から相談があった場合に対応を行っている。